

第2四半期決算説明資料 (2018年度)

2018年11月30日



2018年度第2四半期 決算概要

2018年度第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が見られ、個人消費の持ち直しや設備投資の増加により、景気は緩やかな回復基調が続いているものの、米国の通商政策による貿易摩擦や、原油高、金融資本市場の変動の影響など、依然として先行き不透明な状況にあります。
- このような事業環境の中、呼吸用保護具全般の受注が期初から前年を下回る水準で推移したことから、売上高は、前第2四半期累計期間比99百万円減の44億91百万円となりました。
- 一方、利益面では、売上原価率はほぼ前期並みを維持したものの、売上高が減少した影響から、売上総利益は前第2四半期累計期間比25百万円減の13億25百万円となりました。
- また、販売費及び一般管理費については、人件費、諸経費の削減に注力しましたが、新製品販売強化に伴う諸経費の増加等から、前第2四半期累計期間比ほぼ横ばいの15億6百万円となりました。
- 以上の結果、営業損失は1億81百万円（前第2四半期累計期間は営業損失1億64百万円）、経常損失はリース解約損等が発生したことから、1億87百万円（前第2四半期累計期間は経常損失1億60百万円）、四半期純損失は、特別損失に固定資産除却損を計上したこともあり、1億42百万円（前第2四半期累計期間は四半期純損失81百万円）となりました。

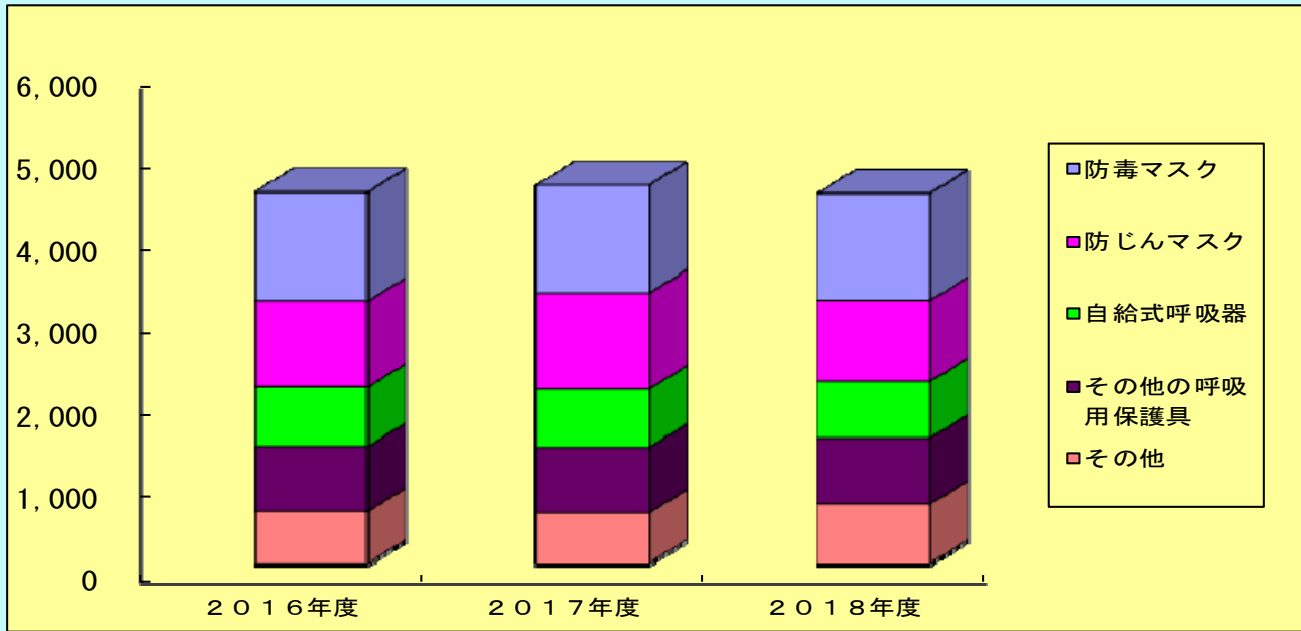
2018年度第2四半期累計期間の損益状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

| | 17年度第2四半期 | 18年度第2四半期 | 前年同期間比増減 | 備 考 |
|--------------|-----------|-----------|----------|---|
| 売 上 高 | 4,590.6 | 4,491.3 | △ 99.4 | 呼吸用保護具全般の受注が、前年を下回る水準で推移したことから、売上高は前年同期間比で99百万円の減収となりました。 |
| 製品製造原価 | 2,393.5 | 2,322.0 | △ 71.5 | 前年同期間比で、製品製造原価は72百万円減少、商品原価は3百万円減少し、売上原価全体では75百万円減少しました。この結果、売上総利益は25百万円減少し、売上高総利益率はほぼ前期並みとなりました。 |
| 商品原価 | 847.8 | 844.7 | △ 3.1 | |
| 売上原価 | 3,241.3 | 3,166.7 | △ 74.6 | |
| 売上総利益 | 1,349.3 | 1,324.6 | △ 24.8 | |
| 販売費及び一般管理費 | 1,513.5 | 1,505.7 | △ 7.8 | 前年同期間比で、販売費及び一般管理費が8百万円減少した結果、営業損失は17百万円増の1億81百万円となりました。 |
| 営業利益 | △ 164.2 | △ 181.1 | △ 17.0 | |
| 営業外収益 | 28.5 | 33.8 | 5.3 | 前年同期間比で、ロイヤルティが増加したこと等から営業外収益が5百万円増加、リース解約損等が発生したことから、営業外費用が15百万円増加しました。 |
| 営業外費用 | 24.8 | 39.6 | 14.8 | |
| 経常利益 | △ 160.4 | △ 186.9 | △ 26.5 | |
| 特別損失 | 0.1 | 10.9 | 10.8 | 一部製造ライン見直しによる固定資産除却損等を計上したことから、特別損失は前年同期間比で11百万円増加しました。 |
| 税引前四半期純利益 | △ 160.5 | △ 197.8 | △ 37.3 | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2.9 | 2.9 | △ 0.0 | 前年度にあった法人税等還付金32百万円が今年度はないこと等から、四半期純損失は、前年同期間比で62百万円減の1億42百万円となりました。 |
| 還付法人税額 | △ 32.1 | — | 32.1 | |
| 法人税等調整額 | △ 50.8 | △ 58.3 | △ 7.5 | |
| 四半期純利益 | △ 80.5 | △ 142.4 | △ 61.8 | |

第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

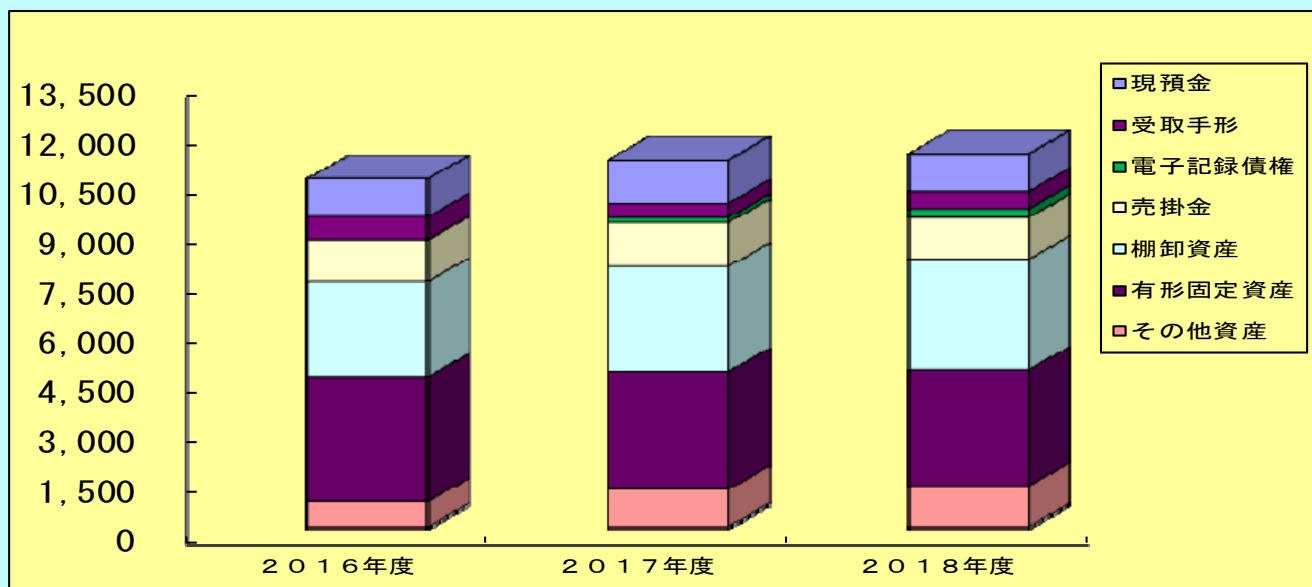
| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|------------|---------|---------|---------|
| 防毒マスク | 1,325.0 | 1,312.0 | 1,302.0 |
| 防じんマスク | 1,041.0 | 1,164.4 | 978.5 |
| 自給式呼吸器 | 720.8 | 706.5 | 687.1 |
| その他の呼吸用保護具 | 790.9 | 797.7 | 801.9 |
| その他 | 629.0 | 610.0 | 721.8 |
| 合計 | 4,506.6 | 4,590.6 | 4,491.3 |

当第2四半期累計期間の特徴

- ① 期初より新製品拡販に注力したものの、呼吸用保護具全般の受注が、前年を下回る水準で推移したことから、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期比で99百万円の減少となりました。
- ② 防毒マスクは13億2百万円と、前年同期比10百万円の減少となりました。
- ③ 前年同期比で、防じんマスクは、1億86百万円の減少、自給式呼吸器は19百万円の減少となりました。電動ファン付き呼吸用保護具を含むその他の呼吸用保護具等の合計は、前年同期並みの水準を維持しております。その他で売上が増加したのは、測定器等の受注が伸びたためであります。

第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|--------|----------|----------|----------|
| 現預金 | 1,145.3 | 1,301.0 | 1,126.8 |
| 受取手形 | 695.1 | 431.5 | 520.8 |
| 電子記録債権 | 11.4 | 147.9 | 259.1 |
| 売掛金 | 1,245.9 | 1,323.1 | 1,258.5 |
| 棚卸資産 | 2,883.9 | 3,177.6 | 3,339.6 |
| 有形固定資産 | 3,748.1 | 3,539.0 | 3,493.2 |
| その他資産 | 762.9 | 1,128.0 | 1,229.9 |
| 合計 | 10,492.7 | 11,048.1 | 11,227.9 |

注： 本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

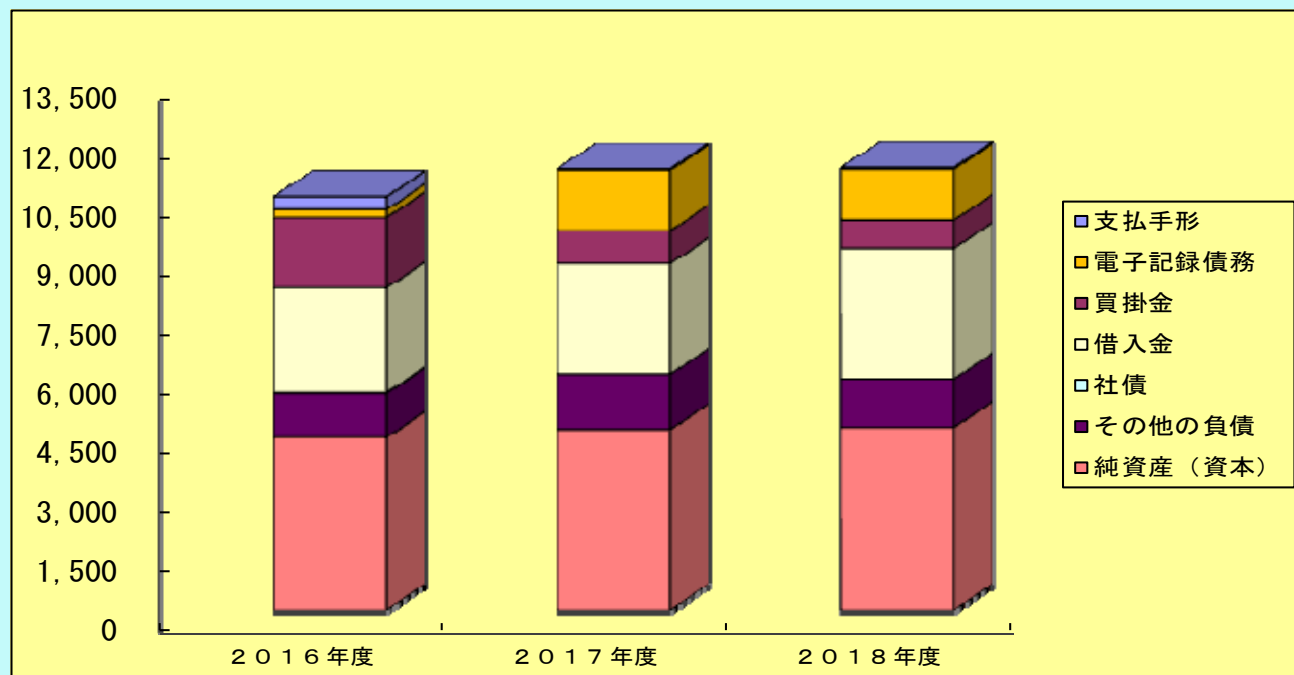
2018年度から「税効果会計基準の一部改正」等を適用し、過年度への計数修正を行っております。

当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では1億74百万円減少していますが、これは通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 割引手形による資金調達の減少から、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）は、前第2四半期末比で1億36百万円の増加となりました。
- ③ 棚卸資産は、年度後半以降の受注に備えて積み増して来ており、前第2四半期末比では1億62百万円の増加となっております。
- ④ 過去に実施してきた設備投資に伴う減価償却の進捗等により、有形固定資産は、前第2四半期末比では46百万円の減少となっております。
- ⑤ 保有株式の株価上昇を受け、投資有価証券が、前第2四半期末比で1億22百万円増加し、その他資産全体でも、1億2百万円の増加となっております。

第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|---------|----------|----------|----------|
| 支払手形 | 321.9 | 31.3 | 33.1 |
| 電子記録債務 | 207.5 | 1,538.0 | 1,298.0 |
| 買掛金 | 1,778.0 | 833.6 | 711.4 |
| 借入金 | 2,667.3 | 2,810.0 | 3,320.0 |
| 社債 | 20.0 | - | - |
| その他の負債 | 1,113.2 | 1,253.2 | 1,228.2 |
| 純資産(資本) | 4,384.7 | 4,582.0 | 4,637.2 |
| 合計 | 10,492.7 | 11,048.1 | 11,227.9 |

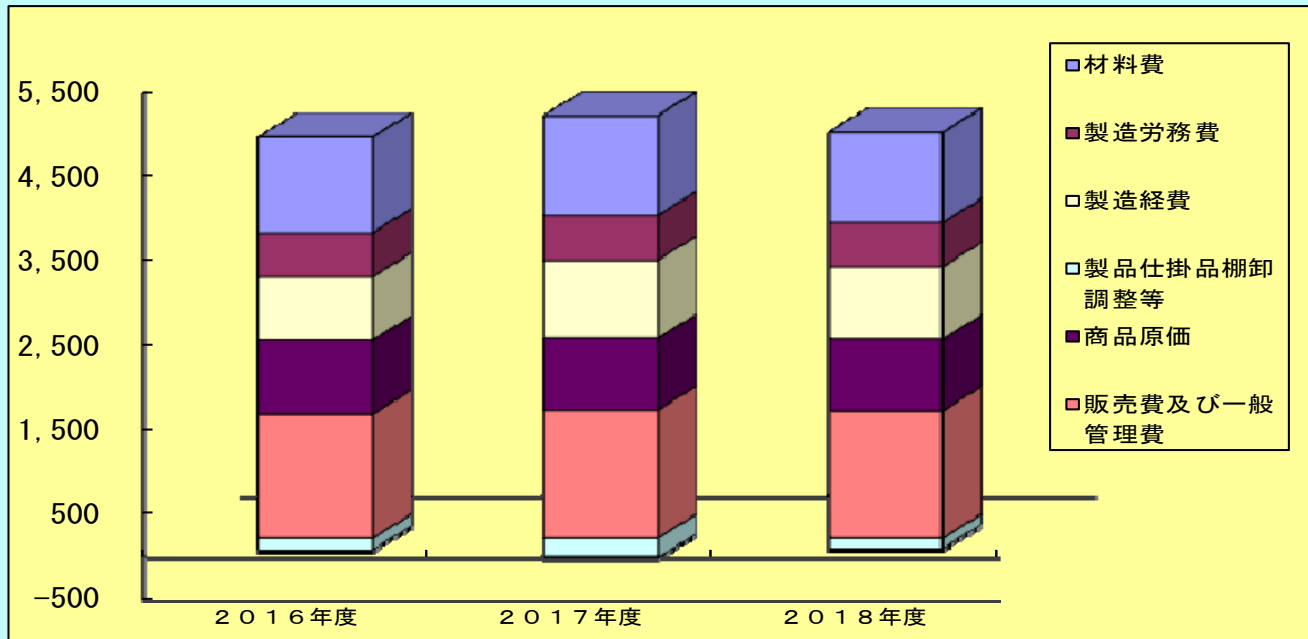
注：2018年度から「税効果会計基準の一部改正」等を適用し、過年度への計数修正を行っております。

当第2四半期末の特徴

- ① 仕入れ高減少に伴い、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前第2四半期末比で3億60百万円の減少となっております。
- ② 運転資金の調達により、借入金残高は、前第2四半期末比では5億10百万円増加しております。
- ③ 負債合計は1億25百万円増加、純資産は55百万円増加した結果、自己資本比率は当第2四半期末で41.3%と、前第2四半期末とほぼ同じ水準となっております。

第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 |
|------------|---------|---------|---------|
| 材料費 | 1,129.2 | 1,177.8 | 1,067.6 |
| 製造労務費 | 520.1 | 528.2 | 518.9 |
| 製造経費 | 750.3 | 924.2 | 858.7 |
| 製品仕掛品棚卸調整等 | △ 140.4 | △ 236.7 | △ 123.2 |
| 商品原価 | 874.0 | 847.8 | 844.7 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,465.7 | 1,513.5 | 1,505.7 |
| 合計 | 4,598.9 | 4,754.8 | 4,672.4 |

当第2四半期累計期間の特徴

- ① 前年同期間比で、材料費は、材料仕入高の減少に伴い、1億10百万円減少した結果、製品売上高に占める比率は33.1%と1.4ポイント改善しています。

製造労務費は、効率的な生産体制に基づく製造要員の最適配置を機動的に進めております。前年同期間比では9百万円の減少となっております。

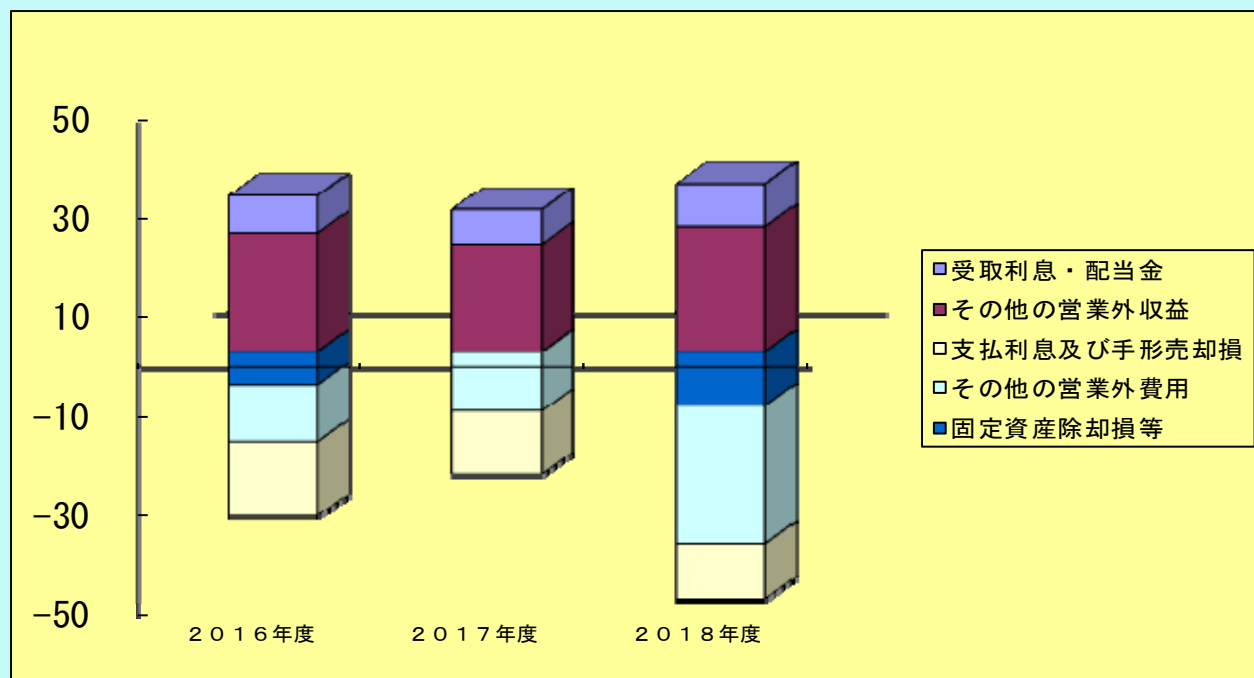
製造経費は、減価償却の減少等があり、前年同期間比で65百万円減少しました。製品売上高に占める比率は26.6%となり、前年同期間とほぼ同水準となっております。

- ② 引き続き効率的な商品仕入れに注力することで、商品原価率の低減を図って来ております。

- ③ 販売費及び一般管理費については、人件費・諸経費の削減に注力しましたが、新製品販売強化に伴う諸経費の増加等から、前年同期間比では8百万円の減少に止まりました。

第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、前年同期間比で、受取ロイヤルティが5百万円、受取配当金が2百万円増加する等、全体では5百万円増加しました。
- ② 営業外費用は、為替差損が5百万円増加したことに加え、リース解約損等が発生したことから、全体では前年同期間比で15百万円増加しております。
- ③ 特別利益に計上すべきものは前年同期間と同様にありません。
- ④ 特別損失は、固定資産除却損を計上したこともあり、前年同期間比11百万円増加しております。

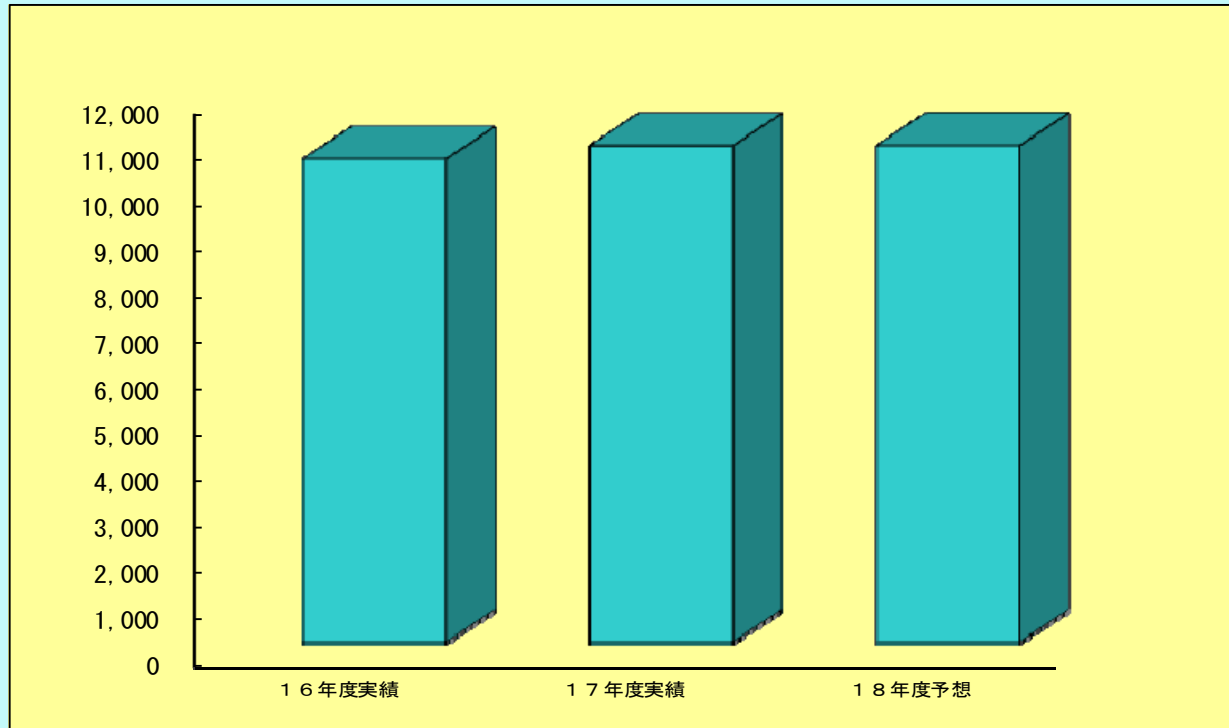
単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

| | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | |
|-------|-------------|--------|--------|--------|
| 営業外損益 | 受取利息・配当金 | 7.5 | 6.9 | 8.6 |
| | その他の営業外収益 | 23.9 | 21.7 | 25.2 |
| | 支払利息及び手形売却損 | △ 15.1 | △ 12.9 | △ 11.7 |
| | その他の営業外費用 | △ 11.4 | △ 11.9 | △ 27.9 |
| | 営業外損益合計 | 5.0 | 3.7 | △ 5.7 |
| 特別損益 | 固定資産除却損等 | △ 6.8 | △ 0.1 | △ 10.9 |
| | 特別損益合計 | △ 96.3 | △ 0.1 | △ 10.9 |

2018年度通期業績予想

2018年度通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

| | 16年度実績 | 17年度実績 | 18年度予想 |
|----|--------|--------|--------|
| 通期 | 10,510 | 10,795 | 10,800 |

状況と見通し

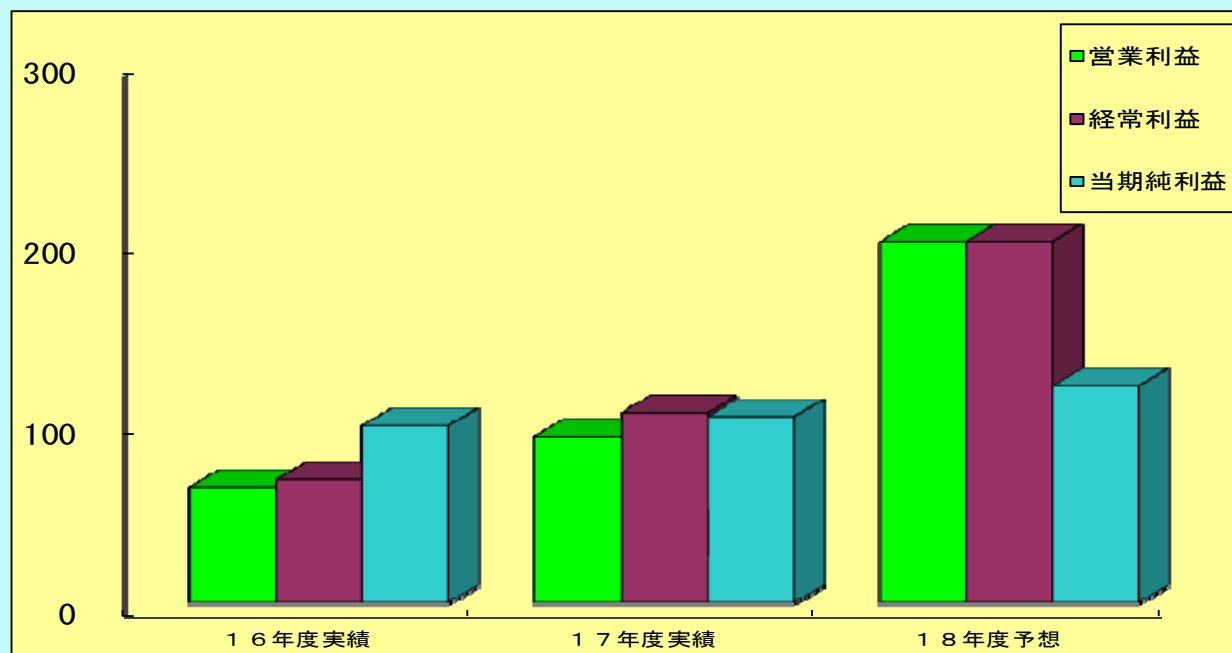
当第2四半期累計期間の売上高は、主要顧客である製造業からの受注が前年を下回って推移しておりましたが、猛暑対策製品の受注が堅調だったこと等により、本年5月に公表した業績予想とほぼ同水準の結果となりました。

通期の売上高予想値につきましては、上記の実績を踏まえ、当事業年度後半の事業環境や受注動向等を見通しますと、現時点では、本年5月に公表した108億円から大きく乖離はしないものと見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

2018年度通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

| | 16年度実績 | 17年度実績 | 18年度予想 |
|-------|--------|--------|--------|
| 営業利益 | 64.8 | 91.6 | 200.0 |
| 経常利益 | 68.3 | 105.2 | 200.0 |
| 当期純利益 | 98.5 | 103.4 | 120.0 |

状況と見通し

当社における年間売上高の構成は、前事業年度実績で見ますと、上半期 45.9 億円、下半期 62 億円（内、第4四半期 36 億円）と、恒常的に下半期、特に第4四半期のウエイトが高くなっております。

当第2四半期累計期間の利益実績は、年度後半以降の製品供給体制の強化や積極的な拡販活動の推進強化に伴う費用先行の影響を受け、本年5月公表の利益予想を下回りましたが、引き続き第3四半期以降も製・商品ともに積極的な拡販活動に注力してまいります。

以上のことから、現時点では、本年5月に公表しました通期の利益予想値につきましても修正は行わず、営業利益2億円、経常利益2億円、当期純利益1億20百万円を見込んでおります。今後、修正が必要になった場合には、速やかに発表を行ってまいります。